

科目名	社会的養護内容Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	16時間		担当者	上村 仁美
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	児童養護施設において保育士として勤務
対象学科・学年	こども未来学科3年						
授業概要	児童福祉理念にたち、社会的養護が発生する背景や児童の福祉を保障する児童福祉施設の役割と実際等について理解する。児童福祉施設実習指導の科目と連動しており、児童福祉施設へ実習に行く為の必要な知識の習得図る						
授業形式	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				こどもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に述べることができる	
		○				施設養護及び家庭養護の実際について説明することができる	
		○				社会的養護におけるこどもの虐待防止と家庭支援について説明することができる	
		○				社会的養護に関する法律の種類と目的・改正のポイントを説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	よくわかる社会的養護内容 第3版 /ミネルヴァ書房						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業オリエンテーション/社会的養護におけるこどもの理解				授業用ノート準備	
	2	社会的養護に関わる機関について				授業の当該範囲を読んでおく	
	3	社会的養護に関連する法律				授業の当該範囲を読んでおく	
	4	措置制度とは				授業の当該範囲を読んでおく	
	5	利用・契約を基本とする施設				授業の当該範囲を読んでおく	
	6	支援の実際				授業の当該範囲を読んでおく	
	7	社会的養護における家庭支援 ～ソーシャルワークと家庭支援～				授業の当該範囲を読んでおく	
	8	社会的養護の課題と展望				授業の当該範囲を読んでおく	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	①授業の中で小テストを実施(1回以上) ②授業レポート ③授業中の意欲・態度 以上を下記の観点から評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト		◎				30%
	授業レポート		◎				30%
	授業態度				◎		40%
履修上の注意	児童福祉施設実習指導の内容とリンクしています。						

科目名	【選択】保育実習Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	80時間		担当者	前田 聖悟
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	○
対象学科・学年	こども未来学科3年						
授業概要	前回の保育所実習を生かし、子どもの年齢や発達に応じた保育展開、状況に応じた保育の実践、さらに子育て支援としての保育所の役割を踏まえた保育実践に努める						
授業形式	講義:		演習:		実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		「保育実習Ⅰ」を通して学んだ技術と理論を基礎として、保育士として必要な資質、能力、技術を向上させる	
				○		子育て支援をするために必要となる知識・技術と一人一人に対する理解力・判断力を養うことができる	
テキスト・教材 参考図書	幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 保育所保育指針解説書						
授業計画	授業項目・内容					授業外学修指示	
	10 日 間	保育実習Ⅱでは、以下の観点から保育士としての実践力を高めていくよう努める ①子どもの年齢や発達に応じた保育や遊びの展開を行う ②その場の状況に応じた子どもへの対応と保育について理解する ③問題のある子どもや保護者に対する対応について理解する ④延長保育や休日保育、育児相談など子育て支援事業の理解 ⑤保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等の実践と理解 (部分実習、全日実習、査定実習) ⑥保育士としての自己の課題を明確化する できるだけ、部分実習や全日実習を行い、実践力を養うよう努めること				・手遊び、歌遊び、絵本の読み聞かせなどの教材や設定保育など保育実習に向けた準備をする ・各自の実習の狙い、課題を明確にする ・実習後の日誌作成のまとめと、実習の反省と課題を明確にする	
評価方法	①実習日誌・事後レポートなどの提出物 ②実習園の評価 ③勤務状況等を総合的に評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	提出物		○		◎		50%
	実習園の評価		○	○	◎		30%
	勤務状況等				◎		20%
履修上の注意	・実習要件科目の単位をすべて修得していること ・保育実習Ⅰ(保育所)および保育実習Ⅱ(施設)を終えておくこと						

科目名	【選択】保育実習指導									
科目名(英)										
単位数	1単位			時間数	16時間		担当者	前田 聖悟		
実施年度	2019年度			実施時期	前期		実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科3年									
授業概要	いままでの教育実習、保育実習、施設実習での経験をもとに、より実践的な学びへと昇華し、学びの中で自身が保育者として現場で働くという視点に重きを置き、保育のみならずクラス担任としての業務や職員間、小学校、地域、家庭との連携などより広い視野を持った実習を行えるよう知識、技術の習得を目指す。									
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
		○				現代社会のありようを理解したうえで保育所の社会的役割について説明することが出来る。				
	○					保育所保育指針の改定を受け保育者の役割を正しく理解する。				
		○				各地域における地域性を理解し、保育の特色、特性、役割を理解する。				
			○			自身の知識、経験を活用し個性ある教材研究を行う。				
テキスト・教材 参考図書	・同文書院版 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	授業オリエンテーション 保育実習Ⅲの目的について								
	2	保育実習Ⅰの実習評価と振り返り、保育実習Ⅲの目標設定					保育実習Ⅰの日記に目を通し自身の実習を振り返ること			
	3	保育所の社会的役割と保育者に求められるもの								
	4	地域における保育の特色と特性								
	5	教材研究概要について					様々な教材を調べ自身の研究アイデアをイメージしておくこと			
	6	教材研究					教材研究に必要な道具を揃えておくこと			
	7	教材研究					教材研究に必要な道具を揃えておくこと			
	8	教材研究					教材研究に必要な道具を揃えておくこと			
	9									
	10									
	11									
	12									
	13									
	14									
	15									
評価方法	①授業態度 ②提出物 ③研究への取り組み 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	授業態度	○	◎		◎		50%			
	提出物	◎			◎		20%			
	研究への取り組み		◎		◎	○	30%			
履修上の注意	出席が6回に満たないものに単位の取得は認めない									

科目名	【選択】保育実習事前事後指導Ⅱ SC										
科目名(英)											
単位数	1単位			時間数		16時間		担当者		前田 聖悟	
実施年度	2019年度			実施時期		前期		実務家教員 担当科目		○	
対象学科・学年	こども未来学科 3年										
授業概要	「保育実習」「教育実習」での自己評価と課題・反省を踏まえ、今後自身が保育者として働く上で必要な心構え、スキルについて再確認を行う。また、教材研究を行い、自身の長所を生かせる保育を創造していく。										
授業形式	講義： ○			演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標					
		○				自身の課題・今後の学習課題について再確認することができる。					
		○				保育者になるという前提をもとに明確な実習に対する目標を持つ事ができる。					
			○			教材研究を通して自身と向き合い、自身の強みに気付くことができる。					
				○		自身の強みを保育に活かし、より実践的な教材研究を行うことができる。					
テキスト・教材 参考図書	なし										
授業計画		授業項目・内容							授業外学修指示		
	1 日 目	実習目標シート作成									
		保育教材発表①									
		保育教材発表②									
		講義『今までの実習の振り返りを踏まえて』									
評価方法	(1)SCの出席(2)授業への参加意欲・発表(3)事後レポートを以下の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	SCの出席						○	10%			
	授業への参加意欲・発表			○		◎		50%			
	レポート		○	◎				40%			
履修上の注意	遅刻(30分以上)欠席の場合近畿大学の履修規定により、単位習得不可とする。										

科目名	オペレッタⅡ									
科目名(英)										
単位数	1単位			時間数	15時間			担当者	上村仁美	
実施年度	2019年			実施時期	前期			実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	こども未来学科 3年									
授業概要	これまでの学校の授業で習得した保育の知識・技術を活用しながら、小学生を対象とした創作劇の制作・発表の実践を経験する事により、保育の現場に出た時の表現力・企画力に繋げる。また、クラスで時間を掛け一つの劇を作り上げていく過程から、チーム力・協働性などを身につけ、3年間の集大成の一つの行事とする。									
授業形式	講義:			演習:	○		実習:	実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
			◎	○		小学校でのオペレッタ発表に必要な道具・衣装を完成させる				
		◎	○	○		こども達の年齢にふさわしい題材・内容にあったオペレッタの練習を行い完成させる				
				◎		クラスで協力し、オペレッタの製作を通してクラスの団結力を養う				
			◎	◎		学生が主体となり、それぞれが自分の役割を全うし、オペレッタを完成する事が出来る				
テキスト・教材 参考図書										
授業計画	回数	授業項目・内容						授業外学修指示		
	1	オペレッタ制作 練習 2年生までの進捗状況確認								
	2	オペレッタ制作 練習 大道具 小道具製作						放課後等利用して練習すること		
	3	オペレッタ制作 練習 衣装製作						放課後等利用して練習すること		
	4	オペレッタ制作 練習						放課後等利用して練習すること		
	5	オペレッタ制作 練習 通し稽古						放課後等利用して練習すること		
	6	オペレッタ制作 練習 通し稽古						放課後等利用して練習すること		
	7	オペレッタ制作 練習 音響						放課後等利用して練習すること		
	8	オペレッタ制作 練習 小学校での達稽古に向けて						放課後等利用して練習すること		
	9									
	10									
	11									
	12									
	13									
	14									
	15									
評価方法	①練習への取り組み・意欲②各自の役割に対しての取り組み③作品の完成度などから以下の観点で評価を行う。評価を行う成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下とする)									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	意欲・関心・態度				◎		20%			
	実践への取り組み				◎		30%			
	作品の完成度			○	○		20%			
履修上の注意	オペレッタの担当の学生を中心に練習・制作計画を提出してもらい準備・実践を行っていく。									

科目名	ペン字Ⅱ						
科目名(英)	Penmanship						
単位数	1単位		時間数	16時間		担当者	入江 陽子
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	こども未来学科3年						
授業概要	・保育者として、日常生活における硬筆書写の一般の知識・理解を深め、業務遂行時に実践できる基礎力を習得する。 ・正しいペンの持ち方・姿勢を守り書写することにより集中力をつける。						
授業形式	講義:		演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					正しい言語づかいで、自分の履歴書を書くことができる	
			○			書式に従って、美しい文字で書写することができる	
			○			正しいペンの持ち方・姿勢で書写することができる	
				○		集中力を持って取り組むことができる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	ペン字の基本 ― 氏名、漢字楷書体					氏名の練習をしておくこと
	2	ペン字の基本 ― 平仮名、数字					楷書体の復習をしておくこと
	3	履歴書 ― 履歴書の書式					履歴書の必要事項を調べておくこと
	4	履歴書 ― 履歴書の練習					履歴書の下書きを仕上げておくこと
	5	履歴書 ― 履歴書の清書					履歴書のペン書きをしておくこと
	6	実用書 ― 手紙文を書く					履歴書の清書を提出できるようにする
	7	実用書 ― 掲示物を書く					お礼状を仕上げておくこと
	8	実用書 ― はがきの書式(暑中見舞)					はがきを持参しておくこと
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)授業の中で清書した履歴書を試験のかわりとして評価する。 (2)出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	履歴書	○		◎			80%
	出席				◎		20%
履修上の注意	黒の水性ボールペンを用意。最終回は暑中見舞い用のはがきを用意 履歴書実物を用意しておくこと						

科目名	一般教養Ⅲ										
科目名(英)											
単位数	1単位			時間数		16時間		担当者		岩下 隆司	
実施年度	2019年度			実施時期		前期		実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科3年										
授業概要	・保育園・幼稚園で行われる季節ごとの行事(五節供、お月見、お正月など)について、由来や行事の意味を理解し、将来の保育に活かす ・季節ごとの祭りの由来や意味、遊びなどを知ること、それぞれの季節に合った保育や遊びの参考にする										
授業形式	講義: ○			演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○					季節ごとにどのような行事があるか説明できる					
	○					各行事の意味や由来を説明できる					
	○					季節ごとにどのような遊びがあり、保育を行う上でどのように活かせるか、例を挙げる ことができる					
テキスト・教材 参考図書											
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示		
	1	年中行事 お正月① - お正月の由来									
	2	年中行事 お正月② - 新年を迎える準備									
	3	年中行事 お正月③ - お正月の食べ物・風物									
	4	五節供① - 人日・上巳									
	5	五節供② - 端午・七夕・重陽									
	6	季節の祭りと遊び① - 春・夏									
	7	季節の祭りと遊び② - 秋・冬									
	8	その他の行事 - 母の日・父の日・敬老の日・勤労感謝の日など									
	9										
	10										
	11										
	12										
	13										
	14										
15											
評価方法	定期試験(筆記)を実施し、下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他		評価割合		
	定期試験		◎						80%		
	授業態度					◎			20%		
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。										

科目名	音楽表現Ⅲ						
科目名(英)	music performanceⅢ						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	中村寛子
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	こども未来学科3年						
授業概要	保育の現場では、音楽は必須のものとなる。朝登園後「おはようの歌」、昼食には「お弁当の歌」、お昼寝時には「お休みの歌」、降園時には「お帰りの歌」、その他にも自然や季節を感じて感性を高めるために「様々な季節の歌」、「遊びうた」、誕生会等の行事に行進を促す「行進曲」等。その音楽をすべて、保育士が把握をし、ピアノで伴奏していかなくてはならない。この授業ではできる限り沢山の曲を歌い、ピアノ演奏する。そのために必要な技術、知識を身に付けるものである。3年生は更に年度末にピアノ発表会があるため、課題曲(バイエル教本又はソナチネ曲集より任意の1曲)自由曲(何でも好きな曲1曲、Jポップ、クラシック何でも可)を練習する。ピアノが弾けるようになる喜びを感じてもらう為であり、何でも頑張ればできるようにということを感じてもらうために、独自に考案した授業内容である。このことにより、自己肯定感が高まり、また、ピアノ技術のかなり向上する。						
授業形式	講義:		演習:		実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標	
	○					音楽の基本知識となる、楽典の習得(楽譜、音符や休符、拍子、記号等の知識)	
		○				ピアノ演奏実技の習得(正しい運指、テクニック、左右の手のスムーズな動きバラバラな動きに対するスムーズな動き)	
		○				声楽の基本実技の習得(正しい音程、呼吸法、リズム等)	
		○				ピアノ演奏における表現力の習得(強弱、スタッカート、レガート、マルカート、レグジェロ等)	
テキスト・教材 参考図書	・近畿大学九州短期大学発行/ピアノ教本・声楽教本 ・ヤマハミュージックメディア発行/はじめての楽典ブック ・チャイルド社発行/こどものうた100 ・音楽の友社発行/バイエル教則本・講師作成の楽譜集(ファイル保管)						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	・今期のガイダンス(20分)・バイエル93番(バイエル教則本)の解説(15分)・楽典(10分)・練習(45分)					授業までにバイエル93番を弾いてくる
	2	・おはようの歌の実習(5分)・バイエル94番(バイエル教則本)の解説(15分)・練習(65分) ・お帰りの歌の実習(5分)					バイエル94番を弾いてくる
	3	・おはようの歌の実習(5分)・せんろはつづくよどこまでも(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)楽典(5分)・練習(60分) ・お帰りの歌の実習(5分)					せんろはつづくよどこまでもの弾き歌いを練習してくる
	4	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)					せんろはつづくよどこまでもの弾き歌いを練習してくる
	5	・おはようの歌の実習(5分)・おばけなんてないさ(近大教本)の解説、歌唱指導(15分)・楽典知識の解説(楽典ブック)(5分)・練習(60分)・お帰りの歌の実習(5分)					おばけなんてないさの弾き歌いを練習してくる
	6	・おはようの歌(5分)・アンパンマン体操(ファイル)の解説、歌唱指導(15分)・楽典知識の解説(楽典ブック)(5分)・練習(60分)・お帰りの歌の実習(5分)					アンパンマン体操弾き歌い練習をしてくる
	7	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)					すべての曲が合格できるように、よく練習してくる
	8	・おはようの歌の実習(5分)・ぼくらのミックスジュース(ファイル)の解説(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)					ぼくらのミックスジュースの弾き歌い練習をしてくる
	9	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)					ピアノ発表会の自由曲の練習
	10	・おはようの歌の実習(5分)・てのひらを太陽にの解説、歌唱指導(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)					てのひらをたいようにの弾き歌い練習をしてくる
	11	・おはようの歌の実習(5分)・練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)					ピアノ発表会の自由曲の練習
	12	・おはようの歌の実習(5分)・1年生になったらの解説、歌唱指導(15分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習(5分)					ピアノ発表会の自由曲の練習
	13	・おはようの歌の実習(5分)・実習曲練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)					ピアノ発表会の自由曲の練習
	14	・おはようの歌の実習(5分)・試験曲練習(80分)・お帰りの歌の実習(5分)					ピアノ発表会の自由曲の練習
	15	前期試験					
評価方法	授業の中での課題曲(小テスト)が合格しない場合は、定期試験の資格がないものとし、試験を受験できない。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	小テスト		◎		○		20%
	宿題・レポート						
	発表・作品						

科目名	教育相談							
科目名(英)								
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	矢野隆子	
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	こども未来学科3年							
授業概要	近年、子供とうまく関われない、人間関係がうまく作れない保護者が増えてきており、保育者の間で、保護者対応がむづかしいという声を聞くようになった。保育者に子どもたちや保護者、地域の相談に適切に応じることのできる資質が求められている。この授業では保育者が保護者と子どもとの良い関わりを築き、そして保護者が子どもと良い関わりを築いていくために役立つ心理学やカウンセリング理論、対人関係の技術の修得を目指す。							
授業形式	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○					幼児、保護者が抱える問題の相談に対応できるカウンセリングの諸理論と方法を説明できる		
	○					保育現場における子ども、保護者の問題に対して対応策を設定してそれを説明できる		
	○					支援者として身につけるカウンセリングマインドの重要性を説明できる		
	○					カウンセリングスキルを身につけ相談された際にどのように対応したらよいか説明できる		
				○		他者からの助言がなくても相談者のもつ心理的、社会的側面へ配慮することができる		
テキスト・教材 参考図書	図書文化社 子育て支援カウンセリング							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	寡黙ガイダンス 教科の目的と授業法・構成的グループエンカウンター					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	よりよい子育て支援のために一保護者の心を支える子育て支援の必要性					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	子育て支援に活かすカウンセリング理論ー来談者中心療法					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	子育て支援に活かすカウンセリング理論ー精神分析療法					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	子育て支援に活かすカウンセリング理論ーアドラー・ユング・交流分析					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	子育て支援に活かすカウンセリング理論ー行動療法・論理療法					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	子育て支援に活かすカウンセリングの技法ー専門性としてのスキル					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	子育て支援に活かすカウンセリングの技法ーカウンセリングのスキル					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	日常の保護者との関わり方ー保育者の毎日と保護者との接点					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	日常の保護者との関わり方ー事例研究					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	養育困難をかかえる保護者への支援ー事例研究					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	障害のある子どもを持つ保護者への支援ー事例研究					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	精神疾患の疑いのある保護者の理解と対応ー事例研究					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	子育て支援に生かす構成的グループエンカウンター					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	保育者として自分と向き合うー自己理解と職場の人間関係					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する (2) 授業への参加態度(グループワーク・ふり返りシート提出) 成績評価基準はS(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験						80%	
	小テスト							
	宿題・レポート							
	発表・作品							
	グループワーク						20%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない							

科目名	交流ゼミⅢ									
科目名(英)										
単位数	1単位		時間数		16時間		担当者		中畔政憲・上村仁美・下川武志	
実施年度	2019年度		実施時期		前期		実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科 3年									
授業概要	こども未来学科の全学年の学生を混合し、グループを編成。そのグループ内で学年を超えた交流を図る。最終的には、当科で実施する「交流会」に向けての準備をおこなっていく。									
授業形式	講義:		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
				○		積極的な姿勢を持つて、他学年の学生やグループ内の学生とコミュニケーションを図ることが出来る。				
					○	物事の段取りを修正しながら、臨機応変な対応を行いつつも計画的に行事を実行することができる。				
				○		物怖じすることなく、積極的にレクリエーションに参加することができる。				
					○	グループの中心となり、レクリエーションを企画・運営することができる。				
					○	人間同士の関わりの中で、人間関係の調整を図ることができる。				
テキスト・教材 参考図書										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	3学年全体でのレクリエーション								
	2	3学年全体でのレクリエーション								
	3	グループ内でのレクリエーション								
	4	こども未来学科「交流会」に向けての準備								
	5	交流会での実践								
	6	交流会での実践								
	7	交流会での実践								
	8	交流会での実践								
	9									
	10									
	11									
	12									
	13									
	14									
	15									
評価方法	ゼミに臨む姿勢、態度が第一優先である。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
履修上の注意	2/3以下の出席状況にて、単位習得不可とする。									

科目名	子どもの保健 I ②						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	川端 いづみ
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	こども未来学科3年						
授業概要	子どもの健康と保育を考え、現場で役立つ救急時の対応を身につける						
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		子どもの成長と発達について知る	
	○	○	○	○	△	現場で必要とされる知識と技術を習得する	
	○	○		○		子どもの疾病ついて知る	
テキスト・教材 参考図書	よくわかる子どもの保健						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	子どもの疾病の特徴				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	呼吸器疾患				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	重要な感染症・予防接種				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	消化器疾患				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	循環器疾患				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	泌尿器・生殖器疾患				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	中枢神経系疾患				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	代謝、内分泌疾患				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	血液、腫瘍性疾患				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	整形外科疾患				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	保育現場における衛生管理				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	子どもの事故防止対策と安全教育				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	現場で役立つ救急時の対応①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	現場で役立つ救急時の対応②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	定期試験					
評価方法	成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(60点未満)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	小テスト	◎	○				10%
	宿題・レポート						
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	子どもの保健Ⅱ SC									
科目名(英)										
単位数	1単位			時間数	16時間		担当者	川端 いづみ		
実施年度	2019年度			実施時期	前期		実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科 3年									
授業概要	子どもの健康と保育を考え、現場で役立つ救急時の対応を身につける。 また、赤ちゃんの沐浴や抱き方、オムツの換え方等を習得する。									
授業形式	講義: ○		演習: △		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
		○	○	○		赤ちゃんへの救命救急の方法を理解し、実践できる				
		○	○	○		赤ちゃんへの抱き方、沐浴の仕方、オムツ交換を実践できる				
		○	○	○		大人も含めたバイタル(血圧測定)・包帯の巻き方や止血方法を習得できる				
	○	○		○		グループでの活動に積極的に参加し、自分だけでなくメンバーに良い影響を与えることができる				
テキスト・教材 参考図書	よくわかる子どもの保健									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	子どもの保健と安全についての概念					スクーリングのオリエンテーションと目標設定			
	2	赤ちゃんの抱き方とおむつ交換の演習とテスト(モデル人形での演習)					モデル人形を使ってグループで練習し、全員が合格するまでテストを受ける			
	3	沐浴の演習とテスト(モデル人形での演習)					モデル人形を使ってグループで練習し、全員が合格するまでテストを受ける			
	4	赤ちゃんの心配蘇生方法の演習とテスト(モデル人形での演習)					モデル人形を使ってグループで練習し、全員が合格するまでテストを受ける			
	5	バイタルサインの測定演習とテスト					グループメンバーをモデルにして練習を行い、全員が合格するまでテストを受ける			
	6	包帯の巻き方演習とテスト					グループメンバーをモデルにして練習を行い、全員が合格するまでテストを受ける			
	7	子どものケガ及び安全対策、応急処置の方法演習とテスト					グループメンバーをモデルにして練習を行い、全員が合格するまでテストを受ける			
	8	2日間のまとめと振り返り					最後にグループ対抗の競争を行い(包帯の演習)、その後振り返りを一人ずつ言ってもらう			
	9									
	10									
	11									
	12									
	13									
	14									
	15									
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	演習とテストの技能点		○	◎	○		50%			
	グループ内での協働・参加状況				◎		20%			
	振り返りのレポート作成		○				30%			
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。									

科目名	児童福祉施設実習指導									
科目名(英)										
単位数	3単位		時間数	48時間		担当者	上村 仁美			
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	○			
対象学科・学年	こども未来学科3年									
授業概要	児童福祉施設の実習に必要な事前学習を行い、日誌の記入の仕方の習得、入所児の理解、施設の概要の理解を行い実践の場でもある単位実習に繋げる学習にする。また、就職年次の学年の実習として位置づけている為、保育者となる上での児童福祉の理解、そこで働く保育者の想いに触れる実習にとする為の事前学習の場とする。									
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		実技:		※ 主たる方法:○	その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	◎					実習に必要な児童福祉施設の理解(施設概要の理解・対象児・職員の職種)が出来る。				
		○	○			施設実習に必要な日誌の書き方、考察の仕方の習得を行う				
		◎		○		学生が自分の実習先の概要の説明が出来る。				
	◎					児童福祉施設の施設の種類や目的が説明出来る				
テキスト・教材 参考図書	新訂 知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 第2版/ 石橋裕子・林幸範 著									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	授業オリエンテーション 施設実習とは					教科書の当該範囲を読んでおく			
	2	宿泊の実習について					教科書の当該範囲を読んでおく			
	3	試し行動・愛着について					教科書の当該範囲を読んでおく			
	4	試し行動・愛着について②					教科書の当該範囲を読んでおく			
	5	乳児院について					教科書の当該範囲を読んでおく			
	6	児童発達センターについて					教科書の当該範囲を読んでおく			
	7	入所しているこども達について					教科書の当該範囲を読んでおく			
	8	実習で使われる福祉用語について					教科書の当該範囲を読んでおく			
	9	実習日誌の書き方について					教科書の当該範囲を読んでおく			
	10	実習日誌の書き方について②					教科書の当該範囲を読んでおく			
	11	施設1日見学(児童養護施設 嘉麻学園)								
	12	施設1日見学(児童養護施設 嘉麻学園)								
	13	施設1日見学(児童養護施設 嘉麻学園)								
	14	施設1日見学(児童養護施設 嘉麻学園)								
	15	実習シュミレーション① (守秘義務 ケースについて)								
評価方法	①授業中に理解度テストの実施②授業の出席率・授業態度・提出物の内容・日誌・実習評価を加味し、評価を行う成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下とする)									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	理解度テスト		◎					30%		
	提出物		◎					40%		
	実習評価 意欲・態度			○		◎		20%		
履修上の注意	正試験を行う代わりに授業の取り組み方、提出物、発表回数・内容などで評価を行います									

科目名	社会的養護内容SC											
科目名(英)												
単位数	1単位			時間数		16時間		担当者		中山八保子		
実施年度	2019			実施時期		後期		実務家教員 担当科目		○		
対象学科・学年	こども未来学科 3年											
授業概要	家庭的養護と施設の小規模化、ソーシャル・インクルージョン(社会的包括)の拡がりの中で居住型の児童福祉施設における養護の理解を深める。また、特に障害や虐待により人との信頼関係構築が難しい児童を支援するための知識や技能を習得させるとともに、施設養護観の形成を目指す。											
授業形式	講義： ○			演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
		◎		○		幼稚園教諭・保育者を目指すものとして社会的養護の機能と役割について基本的事項を理解し説明できる。						
		◎				自立支援計画や養護の理解と簡単な作成を行える。						
	◎	◎				事例を通して、施設保育者の役割と意義を学び、自らの意見を述べることができる。						
		◎				子どもの虐待の防止と家庭支援について説明できる。						
テキスト・教材 参考図書	テキスト： 小木曾宏ほか編『よくわかる社会的養護内容 第3版』ミネルヴァ書房 2015年 参考文献： 吉田眞理著『児童の福祉を支える(演習)社会的養護内容 第3版』萌文書林 2016年 畠中義久編『社会的養護内容総論〔その理論と実際〕』同文書院 2014年											
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示			
	1	児童の権利擁護 児童の最善の利益について考える										
	2	里親制度の特性と養育の実際										
	3	乳児院・児童養護施設・ファミリーホームの養育をめぐる状況と支援の実際										
	4	ひとり親家庭、母子生活支援施設と支援の実際										
	5	情緒障害のある子どものための施設と支援の実際										
	6	障害児施設(入所・通所)の療育と支援の実際										
	7	自立支援計画 子どもへの支援における記録について										
	8	里親・ファミリーホームと専門機関とのつながり										
	9	虐待された子どもと家庭への支援										
	10	施設と家庭との関わりと地域との連携										
	11											
	12											
	13											
	14											
	15											
評価方法	①授業態度②実践に対する取り組み③出席率を以下の観点から評価する。評価を行う成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下とする)											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	レポート課題							○				50%
	意欲・関心・態度			○		○		○				30%
	出席							○				20%
履修上の注意	近畿大学の履修規定により30分以上の遅刻、欠席は単位習得不可とする											

科目名	社会福祉						
科目名(英)	Social Welfare						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	山下 琢也
実施年度	2018年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	○
対象学科・学年	こども未来学科・3年生						
授業概要	「福祉」を堅苦しい内容のものではないと感じ、また、様々な社会現象や問題が自分たちからほど遠いことではなく、身近な部分とつながっていることも理解できることをめざす。						
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					「福祉とは」についての概要を理解し、それを説明することができる。	
		○				福祉における重要な考え方である、「ノーマライゼーション」について理解し説明することができる。	
		○				年金制度の概要について理解し、自身の置かれている状況を理解することができる。	
		○				「ストレングス」「エンパワメント」の概念をもとに、人と関わる上で重要な事柄について理解することができる。	
				○		「福祉」が他人事ではなく、大いに自身の生活に関連することを理解し、	
テキスト・教材 参考図書	講談社「コメディカルのための社会福祉 第4版」、教員自作PPT、プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション					
	2	「福祉」とは？ ～何気なく過ごしている日常に福祉は存在する～				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	「強み、かづける」① エンパワメントの概念				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	「強み、かづける」② スtrenグスの概念				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	バリアフリーとユニバーサルデザイン①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	バリアフリーとユニバーサルデザイン②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	ノーマライゼーション①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	ノーマライゼーション②				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	「ソーシャルワーク」とは？ 支援するとは？				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	社会福祉基礎構造改革について				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	診療報酬制度について				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	年金制度について①					
	13	年金制度について②				自身の年金制度の加入状況を確認すること	
	14	介護保険制度について①				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	介護保険制度について②				定期試験の向けて、これまでの授業内容を確認しておくこと。	
評価方法	授業中の積極性を加味し、期末試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	発表・授業参加度				◎		20%
履修上の注意	毎回の授業でパソコン(パワーポイント)を使用します。可能であれば様々な動画を通じて考える機会を設けたいと思いますので、動画放映の準備をお願いします。出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えません。						

科目名	就職実務Ⅱ									
科目名(英)	employment practical affairs									
単位数	2単位			時間数	30時間		担当者	上村 仁美		
実施年度	2019			実施時期	前期		実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科 3年									
授業概要	就職活動に伴う意欲・心構えの向上を目指し、就職への意識を高める。就職活動に必要な求職票受付面接への指導や、履歴書の作成の仕方、社会人としてのマナーの学習や今後の人生設計や社会人生活について深く考える。									
授業形式	講義： ○			演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○	○			求職票受付面接に合格する。また、受験に必要な際の求職票を完成させる事が出来る				
	◎			◎		何の為に働くのか何故、この職種につきたいかなど自分の就職に対しての考えを明確にする事が出来る				
	◎					就職活動に関する一連の流れを理解する事ができる				
テキスト・教材 参考図書	就職ガイドブック									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	求職票受付面接について①					求職票を持参する			
	2	求職票受付面接について①					求職票を持参する			
	3	就職活動の流れについて					就職ノートを持参する			
	4	作文教室								
	5	働く事について考える								
	6	保育フェアについて(6月上旬)								
	7	福岡市保育協会講話(6月下旬)								
	8	履歴書作成①					履歴書を用意する			
	9	履歴書作成②					履歴書を用意する			
	10	就職試験について								
	11	就職試験対策①								
	12	就職試験対策②								
	13	就職試験対策③								
	14	就職試験対策④								
	15	就職試験対策⑤ まとめ								
評価方法	(1)授業の出席 (2)授業に対しての意欲・関心・態度 以上を以下の観点・割合で評価する。評価を行う成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下とする)									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	授業の出席				○	○	50%			
	意欲・関心・態度				○		50%			
履修上の注意	出席が3分2以上なければ単位習得不可とする									

科目名	障害児保育 スクーリング									
科目名(英)										
単位数	1単位			時間数	16時間		担当者	渡邊 裕子		
実施年度	2019年度			実施時期	前期		実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科 3年									
授業概要	本スクーリングでは、1日目に児童発達支援センターでの1日体験を行い、この体験をベースに2日目には園長先生による講義を実施する。この2日間を通して、障害を持つ子どもたちとその家族に必要な保育・支援の基礎的理解が深まることをめざす。									
授業形式	講義: ○		演習: △		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	△	○		△		児童発達支援センターの園児との関わりを通して、児発の役割や保育内容を理解する				
	△	○		△		園長先生の講義を通して、児発の役割や保育内容の理解を深めることができる				
				○		障害を持つ子どもとその家族について関心を持ち、保育士に求められることを考える				
		○		△		グループワークに積極的に参加し、事例分析を行うことを通して、				
テキスト・教材 参考図書	特になし									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	1日目 児童発達支援センターの概要説明					園長先生より講義			
	2	1日目 児童発達支援センターの保育参加					グループに分かれて各クラスの保育に入る			
	3	1日目 体験を通しての疑問、改めて児発センターの役割を知る					保育に入って感じた疑問等を質問し、児童発達支援センターや専門職の役割や現状について学ぶ			
	4	1日目 振り返りのレポートを記入					体験しての感想レポートを記入し提出			
	5	2日目 レポートより質問に答えて					園長先生より前日のレポートからの疑問に答えて知識の深堀りを行う			
	6	2日目 事例の検討(グループに分かれて)					事例を提示し、グループで検討し、劇にして発表するための準備を行う			
	7	2日目 事例検討の発表(劇にする)					劇の発表と質疑応答			
	8	2日目 全体を振り返って					全体の講評とまとめの講義			
	9									
	10									
	11									
	12									
	13									
	14									
	15									
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	保育への参加状況				◎		20%			
	振り返りのレポート①	◎	△		○		30%			
	グループワークへの参加状況	○	◎		○		20%			
	振り返りのレポート②	◎	○		○		30%			
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。									

科目名	相談援助SC											
科目名(英)												
単位数	1単位			時間数		16時間		担当者		瀧口 直子		
実施年度	2019			実施時期		前期		実務家教員 担当科目		○		
対象学科・学年	こども未来学科 3年											
授業概要	保育者として必要とされる相談支援活動の基礎を習得し、こどもの発達支援と保護者支援の側面からDVDや事例を通して相談援助の基盤と「保護者の想い」や「こどもが集団の中で育ちあう大切さ」・子ども支援を取り巻く環境・制度の理解を深めていく。											
授業形式	講義： ○			演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○					DVDの視聴から保護者の想いを汲み取る事が出来る。						
	○					汲み取った保護者の想いを基に保育者の対応・支援を考える事が出来る						
	○					保育における相談援助の基礎知識が習得できる						
	○					保育における保護者支援の制度や療育の流れが説明できる						
	○					保育における相談援助の必要性が説明できる						
テキスト・教材 参考図書												
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示			
	1	保育における相談援助とは										
	2	DVD視聴 「たったひとつのたからもの」										
	3	演習：「たったひとつの宝物」から学ぶ 保護者の想い										
	4	講義：こどもの療育・発達における相談援助										
	5	発達支援と保護者支援										
	6	集団の中で育ちあう子どもたち										
	7	保育における保護者支援の制度										
	8	振り返り・まとめ										
	9											
	10											
	11											
	12											
	13											
	14											
	15											
評価方法	(1)SCの出席 (2)授業への意欲・関心・態度 (3)演習における発表内容 (4)授業レポート 以上を以下の観点・割合から評価を行う。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	SCの出席							○		10%		
	意欲・関心・態度						○				30%	
	発表						○				30%	
	レポート提出			○						30%		
履修上の注意	近大の履修規定により30分以上の遅刻・欠席は単位習得不可とする											

科目名	卒業論文 I									
科目名(英)										
単位数	1単位			時間数	16時間			担当者	上村 仁美	
実施年度	2019年度			実施時期	前期			実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	こども未来学科 3年									
授業概要	3年間の学修に基づき、興味のあるテーマについて実践と理論を結び付け、エビデンスをもとに科学的に論じる方法を学ぶ。単著とするか共著とするかは、学生が選択する。									
授業形式	講義:			演習:	○	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○		○		証明したいことがらについて論理的に述べることができる。				
	○	○		○		論文の中において、説得性のある資料提示ができる。				
	○	○		○		論文の構成について構想することができる。				
	○	○		○	○	共著とする場合、分担しながら協力して作業を進めることができる。				
テキスト・教材 参考図書										
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示	
	1	オリエンテーション								
	2	論文の構想(単著にするか共著にするか)								
	3	先行論文研究								
	4	先行論文研究								
	5	先行論文研究								
	6	先行論文研究								
	7	先行論文研究								
	8	先行論文研究								
	9									
	10									
	11									
	12									
	13									
	14									
	15									
評価方法	評価は、以下の通りとする。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	論文審査		◎	○		○		70%		
	取り組む態度		○	○		◎		10%		
	プレゼンテーション力		○	◎		○		20%		
履修上の注意	2/3以下の出席状況にて、単位習得不可とする。									

科目名	日本国憲法									
科目名(英)	Constitutional Law									
単位数	2単位			時間数	30時間			担当者	大谷美咲	
実施年度	2019			実施時期	前期			実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	こども未来学科3年									
授業概要	憲法は国の基本法といわれています。憲法は何のためにあるのか、憲法は何を守るためにあるのかについて理解し、そこを出発点にして基本的人権、三権分立、国民主等の憲法の基本原理の理解を深めていきたい。憲法の諸問題は、私達の生活に直接関係ないように思えるかもしれませんが、実は身近なものであることを事例を用いつつ学んでいきたい。									
授業形式	講義：○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○					憲法の人権規定についてどのような権利があり、その性質の違いを説明できるようになる。				
		○				憲法上問題になっている事例について、自分の意見をいえるようになる。」				
	○					権力分立について、その具体的システムとともに説明できるようになる。				
				○		ミニツツペーパーの提出などで、毎回の授業内容を確認できるようになる。				
テキスト・教材 参考図書	近畿大学通信教育部『日本国憲法』									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	憲法の全体構造					テキスト第1章に目を通すこと			
	2	象徴天皇制と国民主権					テキスト第2章に目を通すこと			
	3	幸福追求権					テキスト第4章Ⅰに目を通すこと			
	4	平等権					テキスト第4章Ⅱに目を通すこと			
	5	家庭生活における平等					テキスト第4章全体に目を通すこと			
	6	精神的自由権					テキスト第4章 信教の自由、思想良心の自由、表現の自由などを重点的に理解しておてください。 テキスト第4章Ⅶに目を通すこと。			
	7	人身の自由								
	8	確認テスト、人身の自由					重要テーマの復習をしておくこと			
	9	国会					テキスト第5章Ⅰ、Ⅱ			
	10	内閣・裁判所					テキスト第5章Ⅲ、Ⅳ			
	11	社会権					テキスト第4章Ⅶ前半			
	12	勤労の権利、労働基本権					テキスト第4章Ⅶ後半			
	13	裁判所見学及び模擬裁判					事前区講習			
	14	裁判所見学及び模擬裁判					同上			
15	まとめのテストと解説					全体の復習及びテーマ学習をしておくこと。				
評価方法	授業中の積極性を加味し、期末試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験		◎	○				80%		
	発表・授業参加度					◎		20%		
履修上の注意										

科目名	乳児保育											
科目名(英)	infant nursery											
単位数	1単位			時間数		16時間		担当者		眞崎 明日香		
実施年度	2019年度			実施時期		前期		実務家教員 担当科目		○		
対象学科・学年	こども未来学科3年											
授業概要	近年少子化にもかかわらず社会的需要が高まる乳児保育。子供が成長するうえでの基礎となる生活習慣、愛着形成などの発達課題を学び、乳児そのものへの愛情深い関わり、発達の理解と乳児保育の技術を習得する。また乳児保育を実践するための責任感や心構えを考察を通してより深く自覚していく。											
授業形式	講義： ○			演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
		○				乳幼児の発達の道筋に沿った関わりへ応用することができる						
	○					乳児保育の目的・役割や課題について考え説明することができる。						
		○				乳幼児の保護者の気持ちを理解して悩みを共有したり寄り添える対応をできる。						
		○				乳児の遊びがどのようなものか考え、それに適した安全な遊びや環境構成ができる。						
		○				乳児の個性や主体性を尊重した対応を行うことができる。						
テキスト・教材 参考図書	同文書院 初めて学ぶ乳児保育 萌文書林 乳児保育											
授業計画	回数	授業項目・内容						授業外学修指示				
	1	授業ガイダンス 乳児保育の歴史的変遷						パソコンの準備をすること				
	2	乳児のかかわり方(ほめる・しかる) 発表、講義						パソコンの準備をすること				
	3	エピソードワーク①食事 演習										
	4	乳児保育における遊びと環境整備						パソコンの準備をすること				
	5	乳児院における乳児保育の基本的知識						パソコンの準備をすること				
	6	エピソードワーク②デジタルメディア 気持ちの切り替え										
	7	手袋シアター 計画立案						手袋シアターを事前にしらべておくこと				
	8	児童調査票による受け入れ聞き取り演習						パソコンの準備をすること				
	9											
	10											
	11											
	12											
	13											
	14											
	15											
評価方法	(1)授業内で小テストを実施する。(2)乳児保育に関するレポート提出 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はS(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験											
	小テスト	○		◎								20%
	宿題・レポート	◎		○				◎				80%
	発表・作品											
履修上の注意												

科目名	乳児保育SC											
科目名(英)												
単位数	1単位			時間数		16時間		担当者		眞崎 明日香		
実施年度	2019			実施時期		前期		実務家教員 担当科目		○		
対象学科・学年	こども未来学科 3年											
授業概要	講義や演習を通して乳児保育の理念や乳児保育の役割を学ぶ。グループ演習で、乳児期の子どもへの対応や保護者への支援など、保育者としての基本姿勢を学ぶ。また、乳児の年齢や発達を考慮した教材研究のワークを通し、乳児保育についての理解を深める											
授業形式	講義： ○			演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標						
	○					乳児保育の理念と乳児保育の役割について学ぶ						
	○					乳児期の子どもの発達について学びその生活や遊びについて理解する事ができる						
		○				保護者と保育者、関係機関の望ましい連携について考えられる。						
	○		○			乳児の発達や月齢を理解した上で乳児保育に使用できる教材を作り、発表する事が出来る						
テキスト・教材 参考図書	志村聡子編著 「はじめて学ぶ乳児保育 改訂版」 同文書院 2018年											
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示			
	1	乳児保育とは何か。乳児保育の重要性							教材作成に必要な材料を持ってくる			
	2	演習：乳児保育における教材の研究(手袋シアター作成)							教材作成に必要な材料を持ってくる			
	3	演習：乳児保育における教材の研究(手袋シアター発表)							教材作成に必要な材料を持ってくる			
	4	演習：乳児保育における教材の研究(まとめと考察)										
	5	乳児期の発達										
	6	乳児保育における基本的知識と援助										
	7	グループ演習：実習先の乳児との関わりを通して										
	8	保育者と保護者との連携と子育て支援										
	9											
	10											
	11											
	12											
	13											
	14											
	15											
評価方法	(1)SCの出席(2)授業への取り組み(3)教材の完成度(4)演習での発表内容 以上を以下の観点・割合で評価を行う。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	SCの出席								○		10%	
	意欲・関心・態度						○				30%	
	作品				○						30%	
	発表内容		○		○						30%	
履修上の注意	近大のSC履修の規定により、30分以上の遅刻・欠席は単位習得不可とする											

科目名	発達心理学										
科目名(英)	developmental psychology										
単位数	2単位			時間数	30時間			担当者	江崎 百美子		
実施年度	2019年度			実施時期	前期			実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科 3年										
授業概要	この講義では、人間の発達について理解を深めることを目指します。乳幼児期、児童期、青年期までの各段階の特徴を、知覚と運動、知能と言語、感情、遊びと社会性などの観点から説明します。成人期、高齢期の発達特徴と課題について「生きがい」と関連して説明します。										
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○					発達には段階があり、各段階にはそれぞれ発達上の課題があることを理解する。					
	○	○				発達の多様性について理解することができる。					
		○		○		発達上の課題を効果的に支援する方法について説明することができる。					
テキスト・教材 参考図書	・テキスト 発達心理学～乳児期から老年期まで～ 近畿大学九州短期大学 ・参考資料等、適宜配布する										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	発達心理学とは、発達のとらえ方 遺伝と環境					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	2	現代の発達理論					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	3	運動発達、身辺自立					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	4	言語の発達、コミュニケーション					教科書の街頭範囲を事前に読んでおくこと				
	5	感情の発達、遊び					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	6	社会性の発達 対人関係、母子関係、愛着					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	7	自己概念(仲間関係)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	8	自己概念(セルフイメージ)					教科書の街頭範囲を事前に読んでおくこと				
	9	青年期の特徴					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	10	成人期、高齢期の特徴					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	11	成人の特徴と生きがい					教科書の街頭範囲を事前に読んでおくこと				
	12	心理検査について(発達検査、認知症検査)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	13	高齢期の特徴とデスエデュケーション					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	14	心理的アプローチと支援					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	15	自己分析、全体の振り返り					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
評価方法	(1)授業の中でワークプリント作成を実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	評価割合
	定期試験	◎		○							70%
	ワークプリント	◎		◎				◎			20%
	ワーク結果発表	○		◎				◎			10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。										

科目名	保育・教職実践演習SC									
科目名(英)										
単位数	1単位			時間数	16時間		担当者	中山 八保子		
実施年度	2019年度			実施時期	後期		実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科 3年									
授業概要	これまでの学習と実習の成果を振り返りながら、保育士、幼稚園教諭に求められる資質と能力の習得を確認する。従って、学生自身が必要に応じて自己の資質と能力の向上に努めることができるよう、発表・議論などを組み合わせながら論文の作成を行っていく。									
授業形式	講義:			演習:	○	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
				○		自らの学びを振り返り、保育士、幼稚園教諭として必要な知識・技能の習得を行う。				
				○		保育士、幼稚園教諭として必要なコミュニケーション能力を習得する。				
				○		現代の保育士、幼稚園教諭に求められるニーズを正しく理解することができる。				
				○		自らの学びを深め、論文として発表することができる。				
テキスト・教材 参考図書	なし									
授業計画	回数	授業項目・内容						授業外学修指示		
	1	1日目(卒業論文発表)								
	2	1日目(卒業論文発表)								
	3	1日目(卒業論文発表)								
	4	1日目(卒業論文発表)								
	5	2日目(卒業論文発表)								
	6	2日目(卒業論文発表)								
	7	2日目(卒業論文発表)								
	8	2日目(卒業論文発表)								
	9									
	10									
	11									
	12									
	13									
	14									
	15									
評価方法	(1)SCの出席(2)SC中の取り組みに対しての意欲関心態度(3)卒業論文発表(4)卒業論文の内容で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	SCの出席					○	10%			
	取り組み、意欲・関心・態度				◎		30%			
	発表内容		◎		○		30%			
	論文の内容	○	◎				30%			
履修上の注意	遅刻(30分以上)欠席の場合近畿大学の履修規定により、単位習得不可とする。									

科目名	保育教職実践演習									
科目名(英)										
単位数	1単位			時間数	16時間		担当者	上村 仁美		
実施年度	2019			実施時期	前期		実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科 3年									
授業概要	これまでの講義で習得してきた知識や技術の総仕上げとして、演習を通して保育者としての実践力を高める事を目指す。 また、現場で活躍する保育者や卒業生の講話など見聞する機会を設け、自分の保育観をつくる機会とする。 履修中の授業のハブ科目としてより、深く研究したり実践を行う授業とする。									
授業形式	講義： △			演習： ○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	◎			○		幼稚園教諭・保育者として備えるべき姿勢や心構え、役割などの基本的な事項を理解し説明できる。				
	◎					保育者としての今の時点での自分の保育観を見出す事や考える事が出来る				
				◎		保育者としてチームで研究を行ったり、制作を進めたりする為の協調性を養う事が出来る				
テキスト・教材 参考図書										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	求職票受付面接にむけて～自分の保育観とは～					就職ノート持参			
	2	求職票受付面接にむけて～保育の仕事をする上での自分の強みとは～					就職ノート持参			
	3	求職票受付面接に向けて～自分の目指す職種の研究～					就職ノート持参			
	4	卒論に向けて～保育者になる為に今後学習していきたいテーマ研究～								
	5	卒論に向けて～保育者になる為に今後学習していきたいテーマ研究～								
	6	オペレッタに向けて～保育における創作劇制作①～								
	7	オペレッタに向けて～保育における創作劇制作②～								
	8	オペレッタに向けて～保育における創作劇制作③～								
	9									
	10									
	11									
	12									
	13									
	14									
	15									
評価方法	①授業態度②実践に対しての取り組み③出席率を以下の観点から評価する。評価を行う成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下とする)									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	出席				○		30%			
	実践に対しての取り組み		○	○	○		30%			
	意欲・関心・態度				○		40%			
履修上の注意										

科目名	保育実習Ⅰ（施設）						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数		80時間	担当者	上村 仁美
実施年度	2019年度		実施時期		前期	実務家教員 担当科目	○
対象学科・学年	こども未来学科3年						
授業概要	保育士資格を取得するために児童福祉施設（保育所以外）で行う実習。乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設などの養護施設や障害児入所施設・障害者支援施設などの障害者施設で実習を行う。10日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ ①施設における1日の流れ ②子どもや障害者への理解を深める ③施設保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ ④施設の技術や記録方法について実践的に学ぶ ⑤保育士を志すものとして自覚を高める						
授業形式	講義：		演習：		実習： ○	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 （到達目標）	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		施設現場で養護と療育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのようなつながるか理解することができる	
				○		実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる	
				○		自分なりの保育観や子ども観を深め確立する	
テキスト・教材 参考図書	幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 保育所保育指針解説書						
授業計画		授業項目・内容					授業外学修指示
	10 日間	施設実習では、以下の観点から施設における保育がどのようになされているかを理解する。 1. 施設の内容、機能などを理解する （1日の流れ、子どもや障害者の活動など） 2. 施設保育士の職務内容および役割、また他の職員とのチームワークなどの理解 3. 子どもや障害者を取り巻く社会や家族の問題について理解する 4. 日誌の書き方を学ぶ 担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加すること					・手遊び、歌遊び、絵本の読み聞かせなどの教材や設定保育など施設実習に向けた準備をする ・各自の実習のねらい、課題を明確にする ・実習後の日誌作成のまとめと、実習の反省と課題を明確にする
評価方法	①実習日誌・事後レポートなどの提出物 ②実習施設の評価 ③勤務状況等を総合的に評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	提出物		○		◎		50%
	実習施設の評価		○	○	◎		30%
	勤務状況等				◎		20%
履修上の注意	実習要件科目の単位をすべて修得していること						

科目名	保育実習事前事後指導Ⅰ（施設）SC											
科目名(英)												
単位数	1単位			時間数		16時間		担当者		上村 仁美		
実施年度	2019			実施時期		前期		実務家教員 担当科目		○		
対象学科・学年	こども未来学科 3年											
授業概要	施設実習指導の意義・目的・内容といった保育実習（施設）の全体的な枠組みを概説する。それに続いて、具体的な内容を通して児童福祉施設実習についての授業を行う。施設実習にあたっての実習前にすべき事柄・実習記録の作成の仕方などを学び、実習先の施設の理解や職員の支援の理解・入所児の理解に繋げていく											
授業形式	講義： ○			演習： △		実習：		実技：				
学習目標 （到達目標）	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他							
				◎		保育実習（施設）の全体的な枠組みを理解し、実習に挑む心構えを作る事が出来る。						
		◎				施設実習へ向かつてあつての実習における具体的な目標を項目毎に立てることが出来る						
	○	◎				実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。						
	○	◎		○		振り返りを行う中でクラスメイトと自分の実習の体験や課題を共有する事が出来る						
テキスト・教材 参考図書	石橋裕子他編「新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド 第2版」同文書院 2018年											
授業計画		授業項目・内容					授業外学修指示					
	1 日 目	施設実習に関する基礎理解と注意点					テキスト 実習日誌 必要書類を持参する					
		施設における保育内容と養護					テキスト 実習日誌 必要書類を持参する					
		施設の役割と機能について					テキスト 実習日誌 必要書類を持参する					
		施設実習持参書類などの最終確認					テキスト 実習日誌 必要書類を持参する					
		日誌・指導案の記録について 実習における諸注意					テキスト 実習日誌 必要書類を持参する					
評価方法	(1)SCの出席(2)事前レポート 目標シート(3)事後レポート(4)意欲・関心・態度を以下の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	(1)SCの出席									○		10%
	(2)事前レポート 目標シート	◎		○								30%
	(3)事後レポート	◎		○								30%
	(4)意欲・関心・態度							◎				30%
履修上の注意	遅刻(30分以上)欠席の場合近畿大学の履修規定により、単位習得不可とする。											

科目名	保育相談支援SC									
科目名(英)										
単位数	1単位			時間数	16時間		担当者	瀧口 直子		
実施年度	2019			実施時期	前期		実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科 3年									
授業概要	保育相談支援の基本的知識や方法・技術を講義・演習を通して学ぶ。保育者として、保護者の気持ちや支援の必要性を理解し、保護者を支えていくために保育者自身に必要な知識や想い、支援の環境などを学ぶ。また、保護者支援や日々の保護者とのコミュニケーションに必要な伝え方の技術なども演習を通して習得する。									
授業形式	講義: ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○					保護者支援の意義や必要性が説明できる				
	○	○				保育者として必要な「伝え方」の技術を演習を通して習得できる。				
		○		○		グループワークにおいて、自己理解を促したり、事例を基に保護者への対応を具体的に考える事が出来る				
		○				保育における相談支援の方法を考える事が出来る。				
テキスト・教材 参考図書										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	保育相談支援とは何か								
	2	保育相談支援の基本								
	3	保育士と保育相談支援								
	4	保育相談支援の技術と方法～教材のプレゼンテーションを通して学ぶ事～								
	5	事例:「保育における保護者への伝え方」グループ学習								
	6	事例についてのグループ発表								
	7	保育者の価値観とは								
	8	振り返り・まとめ								
	9									
	10									
	11									
	12									
	13									
	14									
	15									
評価方法	(1)SCの出席(2)授業中の意欲・関心・態度(3)グループ学習の取り組み(4)発表内容(5)レポートを以下の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	SCの出席					○	10%			
	意欲・関心・態度				◎		20%			
	グループ学習の取り組み		○		◎		20%			
	発表		◎		○		30%			
	レポート	◎					20%			
履修上の注意	近畿大学の履修規定により30分以上の遅刻、欠席は単位習得不可とする									

科目名	自然体験基礎						
科目名(英)	Nature Experience Basic						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	前田 聖悟
実施年度	2019		実施時期	通年		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	こども未来学科3年						
授業概要	様々な自然体験を通して、自然に対する知識、経験を得ることで、保育者になった際に子どもたちに対し適切な自然環境との関わりを持てるようになる基礎を培う。また、事前学習、事後学習によって経験と知識の定着を図りより実践的な学びを行っていくことを目指す。						
授業形式	講義:		演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				幼児期に自然環境と関わることの重要性について理解し述べる事が出来る	
	○	○				自然環境、個人の能力差、体力差などに配慮し登山計画を立てることが出来る	
		○	○	○		様々な事象に配慮しながら安全に登山を行うことが出来る	
		○				火おこし、焼き芋の手順を正しく理解する	
		○	○	○		安全に配慮しながら火おこし、焼き芋を実践することが出来る	
テキスト・教材 参考図書	ナツメ社版 どうぐりまつぽっくり落ち葉の工作BOOK						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	自然体験、実体験の重要性について					
	2	調べ学習、登山計画作成					
	3	登山(宝満山)				登山に必要な用具、服装等の準備	
	4	登山(宝満山)				登山に必要な用具、服装等の準備	
	5	登山(宝満山)				登山に必要な用具、服装等の準備	
	6	登山(宝満山)				登山に必要な用具、服装等の準備	
	7	自然体験の重要性に対する考察まとめ					
	8	発表、プレゼンテーション				PP作成を仕上げておくこと	
	9	調べ学習(秋の自然物、焼き芋の焼き方等)					
	10	やきいも実践(油山市民の森)				やきいもに必要な用具、服装等の準備	
	11	やきいも実践(油山市民の森)				やきいもに必要な用具、服装等の準備	
	12	やきいも実践(油山市民の森)				やきいもに必要な用具、服装等の準備	
	13	やきいも実践(油山市民の森)				やきいもに必要な用具、服装等の準備	
	14	考察まとめ、自然物を使用した製作				製作に必要な道具の準備	
	15	自然物を使用した製作				製作に必要な道具の準備	
評価方法	①授業態度 ②発表、作品 ③実践への取り組み 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度	○	◎		◎		30%
	発表、作品	○	◎				30%
	取り組み		○	◎	◎		40%
履修上の注意	登山、やきいもの実践はそれぞれ1日(4コマ)の活動とする						